



《新世界》から発信されたドヴォルジャークの手紙と当時のアメリカ

半 場 久也

(ガットも筆者)

私はこれまでお待ちしておりました。
けれど、これ以上お待ちすることがで
きないと、あなたにお知らせすべき状況

から逃れられない自分に苦しんでいます。

(原注・ジャネット・ターバーとのドヴ
オルジヤークの手紙は、ニューヨーク滞

在二年間には主に経済的な問題に関して
だつた。この施設の経営に多額の金を使
つて参加していたJ・ターバーは、一八
九三年大きな経済的損失をし、そのため
決められた期限に、ドヴォルジヤークへ
の礼金を支払らえる様な状態ではなかっ
た。

更に作曲家が契約によって一八九三年
九月二十三日に受け取るべき下期の報
酬(七千五百ドル)を彼に支払わなかつ
た。ドヴォルジヤークは一通の手形を貰
つたが、これは支払い不能であった。作

曲家は約半年間J・ターバーの経済問題
と現金の受け取りを我慢して待つていた。
この手紙は借金の即時支払いに向かつて
のドヴォルジヤークの最初の断固とした
要求であった。

私はアメリカ国民をとても愛してい
ます。そして私の大きな希望や芸術を
合衆国に提供するはずでした。けれど
も生活の必要性は、芸術と一緒ににな
て行きます。たとえ私が個人的なこと
に無関心でいられても、私の家内や子
供達を苦境に置くのを黙つて見ている
訳にはゆきません。

もしも私の収入を契約通りに得られ
ない状況ならば、管財課にこの件を公
表しますし、もし直ちにそれに注意が
向けられないならば、私の状況を公開
します。

この問題を直ちに受け入れていただ
くようにお願いするのは、大変懸念で
たまりません。と言うのは、私はこれ
以上待たされることが不可能だからで
す。延期することは、私が秘密にして
おきたい事情を公開する方に、私を無

『尊敬に値するターバー夫人様!

一八九四年四月五日

◎ジャネット・
ターバー宛て
(原文英語)
ニューヨーク

理にもつてゆくことになるでしょう。

「きげんよう。

コメント 原文の注釈にある通り、

ドヴォルジヤークは、この手紙を書いた半年間、即ち院長就任一ヵ年以後は、報酬を一文も受け取っていないことに促の初めてのものであれば、彼はそれまで半年間じつと堪えていたのだろう。しかしこの後も払ってもらえないなか

つたらしいが、不思議なことに、前出の内藤著によると、この年の四月に、「契約を更に二年延長した」となっているが、そうすると、最初の約束は二年が正しくなる。

それでも、この状態でドヴォルジヤークがよく再契約にサインしたものである。サーバー夫人が、この手紙を読んで、取り敢えずなにがしかのお金を彼に渡したのであろうか？ この

手紙を読むと、島苦しくなる。」

◎ヨハンナ・アンナ・ストラコヴァ及び

ヴァーツラフ・シトラカ宛て

(原注・ヨハンナ 1851～1938

はドヴォルジヤークの実の妹、時計職人

ヴァーツラフと結婚し、八人の子持ち。

ヴェルヴァアリの彼女の所帯に、ドヴォルジヤークの父フランティシェックが、そ

の晩年四年間過ごしていた。ドヴォル

その後、父のことを思わない日はありません。こちらへ来る前に、もう一度彼に会つておけばよかつたということが思っています！ 残念です。もう終わったことです！ 神様、彼に永久の喜びを与えてください！

月が変わって五月には私共はプラハへ行き、君等と会うのです。私共は君が父親に対してくれたこと全てに感謝しています！ お願いだから

未払いの報酬に忍耐の限界

ヤークは妹に経済的援助をしていました。

ニューヨーク、一八九四年四月十四日

愛する妹と義理の弟へ！

我々の愛する父親が亡くなつた晩は、とても悲しくて、私等は全員熱い涙を流しました。(原注・作曲家の父フランティシェックはヴェルヴァアリで八十歳の時、

一八九四年二月二十八日に亡くなつた。) もつとも私はこの知らせを神のお恵みで冷静に受けとめました。

くください。

(原注・ドヴォルジヤークの言つているツイターは、彼が未だ子供の頃、父親がネラホセヴエスやゾロニツエで賃借りしていた宿屋の主人として、この

樂器を弾いていたもの)

今、朝の七時です。私共は全員父親の死のミサを行うために教会へ急いで行くのです。それはチエコの教会で、チエコ式のミサとして、行わられるのです。それに従つて子供達は彼らの好きなおじいちゃんを祈ることが出来るのです。

五月十九日に私共はニューヨークを出発し、五月二十八日か二十九日の午後二時半にクラルピーに着くでしょう。そこでうまく行けば、君等に会うのです。

では、ごきげんよう！

ヴエルヴァリに行つたら、私は個人的にフラホル声楽協会のデカン氏とヴァーツラフ・ヤンダ氏に、ご挨拶をするつもです。



ドヴォルジャークの故郷ヴィンカーヴ村の入口

コメント <ニューヨーク市民の彼

に対する引き留め策かもしだれないとこの年の四月十八日ニューヨーク・フィルハーモニー楽団の名譽会員に推薦された。ドヴォルジャークが故郷を後に出て行く寸前に出した父親宛ての手紙（前出）によると、「父のいるヴエルヴァリへ行く暇が無いので、プラーハまで出てきてくれ」となつてゐる。

そこで最後のお別れをしようと彼は考えたが、多分父親は会いに来なかつたようである。というのは、この手紙で「……こちらへ来る前にもう一度会つておけばよかつた……」と、後悔した様に書いてあるからである。』

◇冬季号の原稿募集 締め切り 12月24日

お正月らしい原稿をお寄せください。医家隨想、各分野にわたりての評論、詩歌、映画・演劇・書評などをどうぞ。

◎医芸俳壇・歌壇・柳壇の締め切りは1月7日

◇投稿規定

会員ならどなたでも投稿する事が出来ます。

ただし2頁までは無料ですが、写真やカットなどを含めて2頁を超えると、1頁あたり2500円の割合で負担金をいただきます。また10%割引で本誌を購入できます。